

1 自己評価及び外部評価結果

作成日： 平成23年3月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800468		
法人名	有限会社 リフレッシュ		
事業所名	グループホーム彩	ユニット名	1ユニット
所在地	福岡県嘉麻市口春735-3		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成23年3月18日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F
訪問調査日	平成23年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本人の希望や本人のペースに合わせて不安なく安心して過ごせるように努力しています。ホームを我家のように居心地よく快適に過ごして頂きたいと本人の思いを早くみ取り、実現できるように努力します。本人・家族又は親類の関係も円満にいきます事がグループホーム彩にとって最高の幸せです。本人がいつまでも生き生き暮らせますように願っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設以来、多くの喜びも悲しみも経験されてこられた代表ご夫妻。人を慈しむ気持ちの深さは、そこに暮らす方々の笑顔となって現れており、「ここで生活できて、私たちは本当に幸せ者」と、笑顔いっぱいの表情で語って下さるご利用者の姿から、日々の生活の豊かさが伝わってきた。人生の大先輩でもあるご利用者に甘え、色々な知識や経験を教えて頂けており、ご利用者の指導のもと、お漬物をつけたり、梅干しやらっきょ、そばうち、ギョーザ作りなど、瞬間瞬間の楽しいひと時を大切にされている。ご本人の思いや知恵はノートに残し、ご家族にも伝えられているが、22年5月には初めての家族会が行われた。泊まり込みでの交流に発展し、同じ学校の出身だった方もおられ、その後の交流も深まっていった。「最期までホームで…」と希望される方も多く、点滴等の24時間の往診体制、訪問看護のもと、1ヶ月間の終末期をホームで迎えることができた。最期まで綺麗な体で、温かいケアを続け、「ありがとう、ありがとう」というご本人からのお言葉も頂き、笑顔で旅立たれた。往診に来られた先生からも沢山のお褒めの言葉を頂くことができた。これからも、“笑顔・寄り添い”の中、瞬間瞬間の“幸せ”を感じていただける取り組みを続けていく予定である。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔と寄り添いをモットーに優しく寄り添い、ご利用者様が地域の方々と触れ合いいつでも面会に来やすいような雰囲気づくりに力を入れています。自宅が変わってもいつでも逢いに来て楽しく過ごしています。	管理者と職員は、日々、ご利用者一人ひとりのペースに合わせ、毎日の生活で“笑う”ことを大切にされている。楽しみが沢山できるように、日々のレクリエーションや外出、地域の子供達との交流などができる取り組みも続けている。各自のお誕生日には、ご本人が喜ばれる企画を行っており、日帰り旅行も楽しまれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様が地域との関わりが継続できますように地区行事、老人会行事、子供会と参加させて頂き交流の場を大切にしています。	代表の地元地域でもあり、昔から親しい交流が行われており、ホームのご利用者の方々も、積極的に地域活動に参加している。樽ごとの漬物や手作り味噌などの差入れを頂くなど、地域の方からの支援も変わらず続いている。常に、ホームのことを気遣って下さる地域の方に、管理者や職員は感謝している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人から人への人脈もあり、地域の方々の暖かい支援は続いております。交流していく中での認知症への理解を下さり気軽に外掃やお手伝い、話し相手、将棋相手に来て下さっています。また近隣の方からの紹介や相談も増えています。災害時も呼びかけをお願いし、一時避難や食事等のお手伝いも下さるようお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修や報告、評価ばかりでなくグループホームの実際、日頃の様子を知って頂けるように一緒に取り組み参加して頂くなど現状を把握しやすいように努めています。	2ヶ月に1回、会議を開催しており、勉強会以外にも、楽しんで頂ける企画を色々考えられている。しめ縄作り等の季節の行事を楽しんだり、ホームで人気ナンバー1の食事(鍋焼きうどん)を食べて頂き、「美味しい」という感想を頂けた。ご利用者と一緒に行事に参加して頂き、日頃の生活のご様子も知って頂くように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年数を重ねるにつれて、市の方とは信頼関係が構築でき運営推進会議も良い関係が保たれている1つと言えます。ホームだよりも配布させて頂き、いつも協力的に支援して頂いています。	市の職員には運営推進会議に出席して頂いており、日頃からホームの状況等をお伝えしている。市の課長や係長もホームの状況を聞いて下さり、ホーム立ち上げの時から協力して頂いている。スプリンクラーの件も相談しており、市の方と協力して、より良いケアを行っていきたく考えられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体的拘束についてミーティングの議題としています。身体拘束を行わずに介護できるケアについて話し合いをもっています。一時的避難であったとしても十分に家族に説明しています。拘束をしない方針は変わっていません。	現場の育成に取り組んでこられ、職員からの気づきも増えてきている。ベッドより転倒のリスクがある方には、ご本人の行動を察知できるように努めると共に、お部屋を畳にして、お布団に変更するなど、安全への配慮も行っている。自由な生活でもあり、穏やかで明るいご利用者が多い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についてもミーティングの議題に取り上げています。管理者は常に虐待が起こらないように配慮し職員の教育、資質、倫理感に力をいれています。また待遇への課題(資金・重労働)改善しています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学ぶ機会を持ちミーティングで全員が周知できるように伝達研修を行っています。また、市の職員の方より職員と家族への説明の場を持ち学習を行いました。	現在、制度を利用されている方はおられないが、制度のパンフレット等はホームに備え付けている。管理者が、制度に関する外部研修に参加し、他の職員にも伝達研修を行った。市の職員からも、ご家族向けの勉強会の場を通して意見交換を行うことができ、理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には後でトラブルが生じないようにわかりやすい言葉で一つ一つ契約書に添って説明をしています。また、確認の意味で一度二部持ち帰って頂き再確認を頂いた上で記名・捺印にて契約完了とさせて頂いています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に意見・要望・苦情の窓口を説明し、またホーム内にアンケート・意見箱を設置しています。また、ご家族の来訪の際には必ず現状報告・支援経過を見ながら意見を聞くようにしています。また、お電話を利用し密に連絡をとり改善につなげています。	22年5月に初めて家族会を行った。泊まり込みでの交流に発展し、同じ学校の出身だった方もおられ、その後の交流も深まっている。ご家族の複雑な関係にも心配りを続けており、少しでも良い関係になられるよう努めている。ご意見は職員間で検討しており、必要に応じて、運営推進会議の場で参加者から助言を頂いている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員には感謝の気持ちとスタッフの現場の声を大切にしています。改善できるところは早急に対応していき、体調・疲労・精神面にも常に気を配っています。また一人一人の面談も大切にしています。	運営者ご夫妻ともに、職員の気持ちを大切にしており、日々の現場で、共に喜び、共に悲しみ、職員の気持ちを共有するように努めている。「交代でもゆっくり横になって休憩させてあげたい」という思いから、休憩所を作ったり、皆さんのアイデアで“福作り”をされたり、職員の意見を言いやすい環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の雇用も長く職員関係も良好であります。また、職員の意欲向上に向けて労働条件・給与条件・休憩時間の確保など整備されています。また、研修にも行きやすいように便宜を図っています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	人権を尊重し採用しており本人のやる気を考慮しています。本人の意欲を充分発揮できるように支援しています。	職員の採用や募集にあたり、性別、年齢等の制限は行っていない。ホームの理念を説明し、その方の介護についての考えを伺いながら、仕事への意欲等を確認している。お料理、工作、園芸など、職員個別の得意な事を發揮して頂いている。資格取得や外部研修等も積極的に支援しており、受講費用等の支援も行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権・プライバシーに関しては、日々業務の中で指導しています。また、研修にて知識を深め伝達しています。	会議や日々の現場で、社長や管理者が「介護をしてやっている」という感覚にならないように。敬いの気持ちで・・・と話している。特に、命令的な口調にならないように配慮している。お一人様だけ、小さい頃の呼び名でお呼びしている方がおられるが、ご本人に“どう呼んで欲しいか”を確認し、ご家族にも了解頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々ケアの中で学ぶ事も大切であるが、積極的に研修を受けて頂けるように支援しています。また、研修で学んだことは他のスタッフにも伝達講習して頂きスタッフ全員で向上しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間でのお花見・施設見学・イベントを共にする事で情報交換でき交流が深まっています。また、今年は規模も大きくなり、お手玉大会を開催致します。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の段階により本人の思いを考慮し短時間の体験も行っています。入所時には馴染みの家具・寝具・洋服等をご自分にお部屋に入れて頂いています。少しでも早く慣れて頂く為にミーティングにてスタッフに周知情報を共有しています		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安要望に近づけるようにケアプランに導入しています。早めに信頼関係が築けますように納得のいくまでお話をさせて頂きアセスメントを周知しケアプランを共有しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思いを受け止め家族が何でも話して頂けるように努力しています。また、安心したサービスがスムーズに開始できますように家族一体となり支援しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフの顔も変わらず安心して生活ができています。またお互いに愛情が湧いており信頼もあつく大家族になっています。また、ご利用者に甘えたり教えて頂く事も多く、お互い感謝の言葉が多く交わされており良い関係が保たれています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	彩ファミリーは本人だけでなく家族とも仲良くさせて頂き信頼関係も構築できています。行事参加・外出応援・面会も多く、家族に支援され成り立っています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	老人会行事や地区行事に参加させて頂き馴染みの方との交流があり、お友達の面会も多いようです。誰でも来やすいように暖かい姿勢に努めています。	日頃の生活の中で、出身地や良く出てくる場所、お店や寺社などのお話しをする機会が多くなってきた。会話が盛り上がり、ご家族の方にもお伝えすることができた。お友達が来やすくするために、職員もお友達と仲良くするなど、いつも温かく接するようにしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居期間も長く家族のように入居者同士の思いやりが多くみられています。レクレーションや談話で楽しく遊び笑い応援していく中で利用者同士の和が出来ています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了し、3年、5年経っても本人がいる時と同様暖かい支援が続いています。旬のもの畑で採れたもの本人が好きだったものなど、お電話・お手紙・メッセージなど心がこもった関係は継続されています。また、人から人へのご紹介やご相談もありご家族が来てくれたり、又逢いに行く事もあります。とてもうれしい事です。		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々ケアの中で本人の思いや本人の知恵をノートに残し家族へお伝えしています。本人の表情や様子により思いをくみ取りご家族に相談したりアドバイスを頂いており、とても喜ばれています。	ご利用者の生活歴や性格も含めて大切に把握しており、日々のケアの中でご利用者の思いを把握するように努めている。言葉での伝達が難しい方にも、多くの言葉かけをしながらご利用者の表情や様子から、思いを汲み取るように努めている。その方が語られた思いや言葉を、できるだけ多く、ノートなどに残されている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し生活歴や暮らし方が把握しやすくなっています。スタッフ全員で回覧し情報を共有しています。生活していく中でヒントがたくさん含まれておりサービス利用されている中で宝物となっています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを守りながら、その人の視点に立ち力量を考えながら支援しています。また、一人一人のその日の心身の状況を把握し柔軟に対応しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を主としてミーティングを利用しながら介護計画を作成しています。その中でリスクを把握し課題に向けて本人・家族と接点をつかむ努力をしています。本人の思いが入ったケアプランとなっており、喜ばれています。また、随時モニタリングを行っています。	担当者が“生活援助計画”を作り、ミーティングで他の職員の意見も取り入れ、最終的に計画作成担当者が作成している。ご本人やご家族の意向や職員の気づきも反映し、“地域で暮らす”という視点も盛り込まれている。ご利用者と一緒、毎月“がんばりカード”も作成し、目標を意識しながら、日々過ごされている。	

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ホームで楽しく暮らしていきたいを念頭においています。日々ケアの中でスタッフで情報を共有し介護計画を見直し実践していき、気づきの段階で家族に相談・説明をしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状・高齢化も進み家族と外出する事が困難となってきています。このニーズに伴い1年間の企画として私達と一緒に支援させて頂く事で家族との外出を実現していきました。音楽祭・コンサート・日帰りバスツアー・外食など、その方と家族の希望に合わせて楽しみを増やしました。本人・家族ともに大変喜ばれました。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お買物の日には地域のお店に出かけたりショッピングを楽しんでいます。映画のビデオを借りてきて皆で楽しみを増やしています。また、地域の歌謡ショーなどに呼びかけて頂き喜ばれています。紅葉の際の麻生大浦荘無料開放の際も門前まで車で入らせて頂きましたし、農家の方にはコスモス街道のようにきれいに整備されたところへ誘って頂き支えて頂いています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医と希望で協力医療機関の変更も可能となっています。希望によっては家族が通院介助して下さっています。緊急時、24時間体制で支援して頂いております。	医師との連携もとれており、通院介助は職員が行っている。ご家族が希望された場合はご家族が通院介助をされているが、その時に一緒に外食もしてこられている。受診結果は適宜報告しており、ご家族が通院介助をされた場合には、帰宅時に報告して頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、常駐しており、一人一人のご利用者様の観察・早期発見・緊急時連絡など、即、対応しております。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ず入院時には管理者(看護師)が引率しています。安心して治療できるように情報交換を行い、ご家族のわかりやすく説明しています。また、主治医にも連絡をとり安心して治療ができています。また、主治医が総合病院の顧問であり、病院側も安心して早期に退院できるように配慮して下さっています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化・終末期支援の説明をしており、ご家族に確認しております。事業所のできる事、又、主治医により治療方針を説明され同意の上同意書にて確認を交わします。最期まで安心して暮らせるように24時間体制で支援して頂いています。	「最期までホームで」と希望される方も多い。終末期、医師とご家族の希望があり、点滴等の24時間の往診体制、訪問看護のもと、1ヶ月間の終末期をホームで迎えることができた。最期まで綺麗な体で、温かいケアを続け、「ありがとう、ありがとう」という本人からのお言葉も頂き、笑顔で旅立たれた。往診に来られた先生からも沢山のお褒めの言葉を頂けた。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々ケアの中で急変時や事故発生に対して指導しています。主治医の連絡体制も整っています。また、応急処置も理解しやすいようにマニュアルを作成しています。スタッフ全員救命救急講習を受け実践力を付けています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練も夜間設定や夜間呼び出し訓練を行い実際に時間をかけてはかってみるなどの対策をすすめています。また近隣の方々にも協力して頂けるようにお願いしています。(スプリンクラーは設置済)	定期的に避難訓練を行っており、職員・ご利用者・ご家族・地域の方・消防署職員が参加し、夜間想定での避難訓練を行っている。職員が全て集まる訓練も行い、最終時間も測定した。近隣の方や隣接する病院には、火災等の際のご利用者の避難誘導をあらかじめ依頼しており、非常食や飲料水なども数日分常備している。	
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々ケアの中でご利用者様に対する尊敬の念をもって接することを常々指導しています。また、プライバシーを守り優しく接することを厳しく指導しています。優しさの中で安心して暮らしていただけますようにスタッフで徹底しています。	職員は、ご利用者一人一人の生き方と人格を認め、常に目上の方に対する尊敬の念を持ってご利用者に接している。声かけの仕方についても、個別に合わせた声かけを心がけている。ご利用者だけではなく、ご家族の気持ちにも寄り添いながら、“皆が仲良く幸せ”を感じて頂けるような支援が行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のペースを守りながら生活の中で自分の思いを伝えやすいような場面をもって行ったり、ご利用者様の思いをくみ取る努力をしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるがご本人のペースを守り本人の希望にそって支援しています。本人の意向を優先します。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望で洋服を選ばれたり、また、お化粧品をつけて外出を楽しまれています。また、おしゃれの日があり、顔そりやマッサージ・マニキュアを塗って美しくなることをとても喜ばれています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで栽培されたシイタケを採り、取れたて野菜の差し入れを喜んで食されています。また、ご利用者様にご指導してもらいながら、お漬物をつけたり、梅干し・らっきょ・そばうち・ギョーザ作りなど楽しく、おいしさも倍増しています。	ご利用者は、調理の下ごしらえ、味見、盛り付け、食器拭き等に、職員と一緒にっており、旬の食材を使った料理や郷土料理が提供されている。運営推進委員の方々に、ホームの人気NO1の料理である“鍋焼きうどん”を試食して頂き、好評を頂いた。屋外バーベキューや回転寿司、ホテルバイク等も楽しんで頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を把握しており主治医に指導を受けています。食事量や飲水量は細かく計算され排泄との関連もよく観察しています。また、個人によって調理方法も異なり誤嚥を予防しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状況に合わせて見守り、介助・確認までいっています。義歯は毎日洗浄も行っています。(含嗽水は紅茶を使用)		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しながら同時刻にトイレへ誘導したりリハビリを強化し下肢の筋力をつけていく中で誘導がスムーズに行えるようになるなど力量に合わせた支援を行っています。Dパンツから布パンツへ実現できた方もおられます。	日中は、トイレでの排泄を心がけている。失禁の状況を見ながら誘導時間を調節したことで、失禁が少なくなりパットの使用量を減らすことができた。ご利用者の羞恥心にも配慮し、陰部にバスタオルを掛けたり、ナースコールを持って頂き、終わったら教えて頂くなどの対応を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を把握し毎日牛乳を飲んでます。水分強化に努め野菜・果物・繊維の多い食事になっています。また、便座に座った時に少しかがみになり腹圧をかけたたり、マッサージ・肛門マッサージの刺激を与えるなど排便を促しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが本人の希望やタイミングに合わせて臨機応変に入浴を楽しんでいます。入浴だけでなく、シャワー浴・清拭・足浴・陰部洗浄にて清潔を保っています。温泉の湯や薬草も楽しみの一つです。	湯温や介助の必要性、入浴中に気分が悪くなったことはないか等を事前に伺い、時間や入浴する順番、湯温など、ご利用者の希望に応じている。入浴を好まない方には、足浴から始め、慣れて頂くような配慮も行っている。入浴剤を利用して温泉気分を味わって頂いたり、職員との会話を楽しんで頂いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースを守り、本人の希望・状況に応じ、不安なく安心して休息できるように配慮しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ファイルを見ながらお薬をセットしています。薬の名前・副作用・用法など把握しています。また、お薬の変更時には特に注意を促しカルテに書きとめ、効果・副作用等を理解した上で経過を見えています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	頑張りカードを作成しており、毎日の役割や目標を決め取り組み、また印を押す事で楽しみとなっています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望に応じてレクリエーションをお散歩に変えたり近隣の外出においても人員を増員したり、ご家族に支援頂いたり、外出できるように支援しています。	寒い時期は外出を控えていたが、それ以前は、週3回“お散歩の日”が設けられ、日常的にホーム周辺の散歩を楽しまれていた。お花見など季節に応じた外出も行われており、今回初めての日帰りバスツアーも実施された。外出するとお疲れになる方もおられ、ホームの庭でバーベキューを行い、ご家族にお泊りして頂き、ご本人とゆっくり過ごして頂く取り組みも行われた。ご本人はもちろん、ご家族にも喜んで頂ける機会となった。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口の預かり金であるが、病院受診代・お買いもの・外食費など、お金を持参し、お支払いできるように支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族の事をお話したり、逢いたい様子がうかがえる時は、お電話をおかけしたり、代筆でお手紙を出す事も多くあります。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節に応じ、しめ縄飾り、門松から始まり、季節を感じるものを飾る事が多いです。リビング前面にもご利用者様が製作した季節毎の壁面があり、生活感が出ています。	ホームの玄関には、ご利用者と一緒に植えたチューリップのプランターが置かれ、花が咲くのを楽しみにされている。リビングの入り口には、ダンボールで作られた“おた福”が飾られており、節分行事の名残が残っていた。リビングは、朝のレクリエーションや食事の時間に応じてテーブルの配置を変えており、目的に応じた空間作りが行われている。温度や湿度もこまめに調節が行われている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先に椅子を設置しており、お天気の良い日には、ひなたぼっこでくつろぎ、リビングソファで話しながらひと休みされている場面もあり、居心地よく過ごされています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より、馴染みのものや、使い慣れた好みのものを持ってきてもらっています。仏具や遺影も持って来られており、毎日安心して過ごす事が出来ています。	居室は、和室が3部屋と洋室が6部屋ある。ご利用者は自宅で使っておられた家具や布団の他、仏壇、遺影、パズル、絵画等を持ち込まれている。入居生活が長い方など、衣類などの荷物も多くなり、ご家族が持って帰りやすいように、職員が整理して箱詰めするなどの支援も行っている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力量を把握し、一人できるように置き場所を低くしたり位置を変えています。廊下も広く車イスを操作でき、トイレの手すりも変えた事でポータブルトイレから様式トイレへ変わる事が出来ました。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名: グループホーム彩

作成日: 平成 23 年 3 月 18 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	15	職員の育成に力を入れ、指導力をつけていきたい	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランの立案が出来るようになる。 ・自己課題について客観的に観る事ができ、自分で解決に向けて取り組みが出来るようになる。 ・管理者の補佐が行えるようになり、後輩の指導やまとめ役が行えるようになる。 ・資格取得(研修受講) 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター方式のアセスメント・ケアプランの立案を実施する。 ・課題の抽出と解決案までの取り組みを実施する。 ・指導者としての責任をもたせる。 ・ミーティング等における進行役の実施。 	6 ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月